

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北海道)	◎	*	*
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	・10月の売上は当店始まって以来の最高額だった。当地においても、予想以上の質上げが行われていること、中国や米国で観光地としての日本の人気が高いこと、東南アジアの経済成長が引き続き安定して推移していることなどがプラスとなっている。国内の経済状況を見ると、ようやく失われた30年の低迷から抜け出したとみられる。また、今回の衆議院選挙の結果を受けて、政治が良くなることも期待できる。とにかく景気が悪くなる理由が思い付かない状況にある。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	・受注量の増加傾向はしばらく続くことになる。
	○	高級レストラン（スタッフ）	・今後は年末商戦が本格化する時期であり、新規の企画を行うことで、来客数及び売上が伸びると見込んでいる。
	○	観光型ホテル（スタッフ）	・今後も現在の好調な動向が続くと見込まれる。
	○	旅行代理店（従業員）	・これから旅行のオフシーズンに突入するが、個人旅行の予約が年々早まっていることから、春の旅行需要で販売量が増加すると期待している。
	□	商店街（代表者）	・今後も景気は変わらない。ただし、国の方針が減税ではなく増税の方向に進むことになれば、景気がかなり悪くなることも懸念される。
	□	商店街（代表者）	・燃料価格が高騰しているため、今後、客の外出控えが顕著になることが懸念される。区域内の百貨店が閉店して、商店街でのついで買いもなくなっているため、例年より多くの業種で売上が落ち込むことが懸念される。
	□	百貨店（販売促進担当）	・アジア圏との就航本数がコロナ禍前の水準に戻りつつあることから、年末にかけてインバウンドの増加が見込まれる。一方で、国内客の消費動向は物価高の影響で鈍くなっており、年末を迎えても余り回復しないとみられる。
	□	スーパー（店長）	・先行き不透明感はぬぐえないことから、景気回復にはもう少し時間が掛かることになる。
	□	コンビニ（エリア担当）	・今後も近隣の客にアピールする企画を継続することで集客を維持したいが、これから家計がますますひっ迫することになれば、年末の消費が落ち込むことが懸念される。
	□	コンビニ（エリア担当）	・商品の値上げが続いていることで、客が消費を控える動きが続いているため、今後も景気は変わらない。
	□	衣料品専門店（経営者）	・新しい経済対策が行われない限り、景気は変わらない。
	□	乗用車販売店（経営者）	・一部の業種は堅調に推移しているものの、物価の高止まり傾向により、個人消費は弱めの動きで推移している。工場在庫数、新車販売の受注残の減少が続いていることも懸念材料となっており、今後の動向を注視している。
	□	乗用車販売店（従業員）	・年末に近づくにつれて、客の消費が日用品や食品に向かうことになるため、車に金を回すことは考えにくい。年末にかけて、新型車が販売される予定もないため、今後の販売量が大きく伸びることはなく、春先需要まで我慢の時期となる。
	□	乗用車販売店（従業員）	・年末にかけて、一部改良の新型車が数台出る予定であるが、受注枠が限られているため、売上や社員のモチベーションアップにはつながらない。新型車を欲しいと考える客に十分に供給できないことから、今後も景気の足踏み状態が続く。
□	乗用車販売店（従業員）	・7月頃から新車の販売台数が若干落ち込んでいる状態が続いている。販売台数が増加するような好材料も見当たらないことから、今後も景気は変わらない。	
□	自動車備品販売店（店長）	・季節商材の動きは良いが、それ以外の商材の動きは変わらない。今後の景気がどうなるか判断が難しい状況にある。	
□	住関連専門店（役員）	・客の購買動向や消費意欲が上向くような環境の変化がないことから、先行きの景気も変わらない。ただし、米の価格が大幅に上がっていることが、今後に影響してくると懸念している。	

□	その他専門店 [医薬品] (経営者)	・客の購買動向がこのまま上向いてくれば心配いらないが、高齢の客が多いことを考えると判断が難しい。
□	その他専門店 [造花] (店長)	・業種的に、年末は販売量が落ちている時期であるため、今後の景気は横ばいでの推移となる。
□	高級レストラン (スタッフ)	・年内の地元客の消費行動は衆議院選挙の結果次第となる。現政権が継続することになれば、政策によっては客の生活に余裕が出てくるとも考えられる。一方、新内閣が発足することになれば、外食産業の景気にマイナスの影響が生じることが懸念される。
□	スナック (経営者)	・今後も当店を取り巻く状況は変わらない。
□	旅行代理店 (従業員)	・今後についても、現状と同様に景気の悪い状態が続くことになる。衆議院選挙後に多少景気が回復したとしても、北海道に効果が出てくるまでは時間が掛かるため、しばらく変化はないとみられる。
□	旅行代理店 (従業員)	・企業からの問合せ件数について、一時の勢いがなくなっていること、下期に予定していた旅行を翌年度にスライドして再検討する動きが増えていることから、今後も景気は変わらない。
□	タクシー運転手	・乗務員が増えていることから、会社の売上は前年を大きく上回ると見込んでいる。ただし、採用コストの負担が大きくなっていることから、利益は前年並みで推移するとみられる。
□	タクシー運転手	・予約状況は前年を下回っているものの、年末に向けてのイベントによる効果を期待している。ただし、来客数が大幅に増えるような要素は見当たらないことから、全体的な景気は変わらない。
□	通信会社 (企画担当)	・現状の景気が一層上向くような要因がないことから、今後も景気は変わらない。通信端末の新機種の価格上昇が続いていることが気掛かりであるが、客は現行端末や旧端末の購入により辛うじて購入費用を抑えることができている。
□	美容室 (経営者)	・今後については、衆議院選挙の結果次第で良くも悪くもなるため、予測しにくい面がある。現状と同様の傾向が続くことを期待している。
□	その他サービスの動向を 把握できる者 [フェ リー] (従業員)	・インバウンドの利用はある程度見込めるものの、天候不良による欠航も予測されるため、今後も景気は変わらない。
□	住宅販売会社 (従業員)	・衆議院選挙の結果を受けて、物価高騰対策などの経済対策がどのように行われ、それにより消費者マインドが上向くか動向を見守りたい。
▲	商店街 (代表者)	・今回の衆議院選挙の結果を受けて、政治が混乱することが懸念される。
▲	百貨店 (売場主任)	・新内閣発足の可能性も見え隠れするなど、今後の情勢が不安定ななか、一般客を中心に出費を抑える傾向がみられることから、今後の景気は悪くなる。ただし、冬のボーナスが過去最高額になると見込む報道が一部でみられることから、富裕層を中心に今後の消費が伸びる可能性もある。
▲	スーパー (店長)	・物価高の影響でより安い商品が客が選ぶ傾向が強まっていることから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	スーパー (店長)	・北海道はこれから段々と寒くなるため、灯油などに金が掛かるようになる。今年は灯油の価格が上がっているため、必要のない物は買わない動きが強まるとみられる。
▲	スーパー (企画担当)	・10月は品目数で今年最多となる値上げが行われたこと、今後も物価高が続くとみられることから、客の価格に対する反応がますます厳しくなり、買物の頻度が低下することが懸念される。
▲	スーパー (企画担当)	・来客数の減少が止まらないことに加えて、買上点数が伸びてこないことから、今後の売上減少が見込まれるため、景気の先行きは暗い。
▲	スーパー (役員)	・米の値上がりの影響が大きい。弁当類や製菓類など、これから広範囲の商品に値上げが発生してくると見込まれるため、今後の景気はやや悪くなる。
▲	コンビニ (エリア担当)	・今年はオホーツク方面の秋サケ漁の漁獲量が少なかったことから、漁師の所得が減少するとみられるため、今後の景気はやや悪くなる。

	▲	コンビニ（エリア担当）	・これから北海道は寒い時期に入るため、光熱費の負担が大きくなる。必要な物をなるべく安く購入する動きがますます強まることになる。
	▲	衣料品専門店（エリア担当）	・食品の値上げが続いていることに加えて、これから暖房費の掛かる時期になることから、衣料品への支出が抑えられると見込まれる。
	▲	家電量販店（店員）	・大型暖房機の動きが悪い。来客数も減っているため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	乗用車販売店（経営者）	・物価が急激に下がることなどは期待できないため、今後の景気回復は見込めない。
	▲	高級レストラン（スタッフ）	・今後は、ビジネス客が中心の時期となるが、ビジネス客も減少傾向にあることから、景気はやや悪くなる。
	▲	観光型ホテル（経営者）	・例年、閑散期となる時期であることに加えて、台湾、韓国などからの団体客の動きが良くないことが気掛かりである。国内団体客の動きも相変わらず鈍いため、年末にかけて厳しい状況となることが見込まれる。
	▲	旅行代理店（従業員）	・晩秋から初冬にかけては観光需要の少ない時期となるため、国内線も国際線も航空需要が伸びる要素は少ない。1月末から2月にかけての冬季観光繁忙期に国際線の利用が増えることを期待している。
	▲	タクシー運転手	・衆議院選挙の影響で人の動きが鈍っていることから、今後も厳しい状態になる。
	▲	タクシー運転手	・政治の動きが落ち着くまで、今後の見通しは立たない。
	▲	観光名所（従業員）	・2024年上半期の当地は、様々なプラス要因に恵まれたことで、好調過ぎた面がある。下半期は例年よりも景気が上向くような要因が見当たらず、上半期の反動で心理的に停滞感が強まりそうな雰囲気がある。
	▲	美容室（経営者）	・最低賃金について、1500円を目指す方針が示されているため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	住宅販売会社（経営者）	・住宅の建築コストが下がらないことから、今後も住宅建築業界を取り巻く環境は厳しいまま推移する。また、衆議院選挙が行われ、政局や政策がこれからどのように変わっていくのか分からないことも気掛かりである。
	▲	住宅販売会社（経営者）	・依然として所得の増加を上回る物価上昇が続いていることから、客の購買力が相対的に低下している。このことが分譲マンション市場に対して悪影響を及ぼしている。
	×	商店街（代表者）	・衆議院選挙で政権政党が過半数割れとなったことで、一気に政局が不安定になった。消費は政治や経済が安定しているときに伸びるため、政局不安は消費者のマインド低下を招き、消費低迷につながることになる。これからの年末商戦に向けて大きな不安である。
	×	一般小売店（経営者）	・明るい兆しが全くない。
	×	スーパー（店長）	・値上げの動きが止まらず、給料の伸びが物価の上昇に追いついていないことから、今後の景気は悪くなる。
	×	タクシー運転手	・物価高により一般家庭の節約意識はますます強まっており、生活必需品の節約にまで及んでいる。今後については、より安価な代替商品や代替サービスを求めたり、又は消費活動自体を思いとどまることになり、景気は一段と冷え込むことになる。
企業 動向 関連  (北海道)	◎	—	—
	○	金融業（従業員）	・輸入物価の低下が企業物価、消費者物価にも波及することで、実質賃金の改善につながり、消費者マインドが持ち直すことが見込まれる。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・公共投資が底堅いこと、半導体関連や再生可能エネルギー関連などの民間投資が継続していることから、今後の景気はやや良くなる。
	□	食料品製造業（従業員）	・新しい案件が特に見当たらないことから、今後も景気は変わらない。
	□	食料品製造業（従業員）	・営業担当者の変更など、営業体制の見直しに伴って、販売量が伸びていることから、今後も同様の伸びが期待できる。
	□	建設業（従業員）	・施工者不足による建設費高騰の流れは今後も変わらない。施工者不足は年を追うごとに深刻になるとみられるため、早急に対策を施さないと建設業界の今後の動向に大きく影響することになる。



□	職業安定所（職員）		・新規求人数の落ち込みは継続しているが、特殊要因によるものである。一方、新規求人数と新規求職申込件数の最近の動きをみると、どちらも僅かな増減にとどまっている。求人数の落ち込みが景気の悪化に直結しているとはいえない状況にあるため、今後も景気は変わらない。
□	学校〔大学〕（就職担当）		・人手不足の状況に変化はなく、今後も変わるような要因が見当たらない。
▲	求人情報誌製作会社（編集者）		・円安、物価高の傾向は変わらず、経済が動いていても地場企業の景気は良くなっていない。景気が上向く材料が見当たらない。
×		*	*